

館長メッセージ — 科学を楽しんで！

大阪市立科学館 館長 加藤賢一



激動の2011年度が終り、新たな年度が始まりました。大阪市立科学館ではスタッフの交代もあり、新しいスタイルで科学をお届けしようと張り切っています。5月には金環日食が見られますが、このあたりで観察できるのは300年ぶりくらいだそうですから、これをご紹介しないわけにはいきません。新しい全天周映像システムでクリアなイメージをお届けするのは勿論、観察会などのイベントも考えています。加えて、お子様向けのプラネタリウムからちょっとハードな企画展まで、新メニューがいろいろ。乞うご期待! です。

ここ数年、市民の皆さんに科学館の先生になって戴こうという企画を推進してきました。展示場で案内しているサイエンスガイドの皆さんは全員市民ボランティアの方々ですし、サイエンスショーや天体観望会で活躍しているボランティアさんもいらっしゃいます。おかげで最近の科学館は以前に増して賑やかに、生き生きとしています。今年をもっともっとたくさんの方々にご登場戴き、一緒になって大いに科学と科学館を楽しみたいと思っています。みなさんも一緒にいかがですか? きっと楽しいと思いますよ。科学館のホームページの案内にご注目ください。

ところで、今、世界も日本もむずかしい状況になっています。そこで思い出されるのがガリレオの悲劇です。後になって誰でも認める真理を示したガリレオを迫害したのは現実を直視しようとしなない頭の固い人たちでした。表面的には教会とされますが、教会を動かしたのはそうした人たちでした。ヨーロッパの経済混乱や日本社会の閉塞感、原子力発電所事故への対応などを見ていますと、私たちは第2、第3のガリレオを生んでいないか、またそうした雰囲気になっていないか、疑問なしとしません。ここに至って「現実を直視する」ことのむずかしさ、つまりできごとを客観的に、科学的に見ることがいかにむずかしいかを改めて感じます。高いレベルの教育を受けた方々だからそうした訓練ができているとは限らないようで、現実はいびしい状況です。ガリレオの悲劇を生まないようにするにはどうすれば良いのでしょうか、またそのためのうまい訓練法はないのでしょうか?

訓練法としては科学的な見方の習得しか私は思い浮かびませんので、しばらくそれで進んでみようと思いますが、スパルタ式訓練では長続きしないでしょうから、そこにちょっと味付けをして、と思っています。どんな味付けをするか、それが今年の大きな課題です。その一端を科学館で展開して、皆さんへのちょっとしたプレゼントにできれば嬉しいな、と考えています。